

編集後記

文教大学附属生活科学研究所紀要は、今年度（2021年度）第44集を刊行することとなりました。本号には論文6編、研究ノート5編の計11編が掲載されました。お陰様で今年度も多くのご投稿を頂き、本誌が刊行されました。ご投稿を頂きました皆様、並びに本誌の作成にご尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

今年度の生活科学研究所の活動は本誌刊行のほか、例年通りに毎月の定例会の開催、公開講座や研究報告会の開催など各種事業を実施して参りました。昨年度と同様にオンラインを中心としながらも、今年度の公開講座は対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス型の事業を実施しました。なお2021年度の生活科学研究所の公開講座は、新たな取り組みとして大学院人間科学研究科との共催事業として開催しました。その概要は本誌、並びに生活科学研究所のホームページに掲載されておりますのでご参照ください。

過去約2年間のコロナ禍の経験から学んだことは非常に多くあると思います。特に学びの方法としてのオンラインの活用は、生活科学研究所の事業にも多様性をもたらしてくれました。同じ空間、同じ時間に集まらなければ実施できなかったかつての事業とは異なり、オンライン会議等の導入によってより利便性が高まり、遠隔地からの参加も可能となるなどメリットも沢山明らかになりました。

人間の生活にとって不可欠と考えられる学び、遊び、そして仕事等はいずれも「オンラインか対面か」といった二項対立でその方法を考えるべきではなく、「オンラインも対面も」を通常として考える時代になったと実感した1年でした。これからも人間の生活は様々な面で変化を遂げることでしょう。その様々な変化を我々は恐れず、変化に対処する方法は質保証の観点を踏まえながら可能な限り多様な方法を取り入れる姿勢が求められていると思います。生活科学を志向する本研究所の基本姿勢も、常にそうしたものでありたいと思います。

生活科学研究所 所長 金藤ふゆ子